

第14回北斗市地域公共交通活性化協議会 議事概要

日時： 令和5年5月23日（火） 10時00分～11時30分

場所： 北斗市役所本庁舎1階 大会議室

（出席） 15名 （欠席） 7名 （事務局）

1 開会

2 協議事項

(1) 委員の変更について（報告）

- 「資料1」に基づき事務局から報告。

(2) 役員の選任について（協議）

- 「資料2」に基づき事務局から説明。
 - ・会長については、引き続き齋藤委員に依頼したい旨事務局から提案し、全委員の承認を得た。
 - ・副会長については、要綱に基づき齋藤会長が菊池委員を指名。
 - ・監事2名については、佐藤委員及び今村委員に依頼したい旨事務局から提案し、全委員の承認を得た。

(3) 令和4年度事業報告及び決算報告について（協議）

- 「資料3」に基づき事務局から説明。「資料7」に基づき老人クラブ連合会の協力により実施したアンケート調査結果について報告。意見、質疑なく、全委員に承認された。

(4) 令和5年度事業計画（案）及び予算（案）について（協議）

- 「資料4」に基づき事務局から説明。
 - 会長
 - ・モニターツアーは重要。他地域で、実際に乗車していただくことで公共交通の利便性に気付いたという声を聞くことがある。今年度もぜひ取組を加速させていただきたい。
 - その他意見、質疑なく、全委員に承認された。

(5) 巡回ワゴンの運行見直しについて（協議）

- 「資料5」に基づき事務局から説明。
 - 委員
 - ・フリー乗降で乗ったことのない人が多いため、高齢者や地域の方を対象としたフリー乗降区間での乗り降りを実際に体験できるモニター乗車のような取組が必要。
 - 会長
 - ・ワーキンググループでも、どの車が巡回ワゴンなのかがわかりにくいという意見があったが、実際に乗ってもらって知ってもらうことが必要になる。
 - 委員
 - ・路線見直しの目的が、より利用しやすく、よりわかりやすく、というものであるならば、路線分割により路線数が増加することは、利用者にとってわかりやすくなる一方で、オペレーションが複雑で難しくなる。
 - ・現在の路線も入念な事前リサーチをもとに設定されたものなので、路線を育てると

いう視点で、もう少し状況を分析することも必要だと思う。

- ・フリー乗降についても、まずはフリー降車から開始して、降車の多い場所にバス停を設定していく、といった段階的なやり方が安全面、対応する乗務員の視点でも望ましいのではないか。

●事務局

- ・上磯線については、現在の利用状況から考えると現在乗っている方々のニーズに合わせて、よりわかりやすく短時間で目的地にいける見直しが必要と考えた。押上や大工川会館といった利用のある地域を中心に、短時間で移動できるような路線をひいて利便性を高めるためには路線分割が近道になる。
- ・引き続き体験乗車などを重ねながら路線を覚えていただきたいと考えている。
- ・フリー乗降については、通常のバス車両ではないワゴン車のため、安全面に配慮しながらフリー乗降にも対応可能と考えたもの。先ほど酒井委員からも意見があったが、体験乗車などにより乗降方法に慣れていただきたい。

○委員

- ・正面から来たらそれが巡回ワゴンだとわかりにくいので、フリー乗降にしても手を挙げにくいのではないか。
- ・フリー乗降区間と石別地区の予約制・区域運行とで不公平さが生ずる気がする。じっくり検討して、どちらかに統一してはどうか。

○委員

- ・路線の一部見直しについて、巡回ワゴンの主な利用者は、スマホを使えない・使わない世代である。そういった方々への周知方法として、昨年のようなガイドマップを作成し全戸配布するよりも、老人会や町内会単位で最寄りのバス停を直接説明した方が理解いただけると思う。

●事務局

- ・車両の掲示をよりわかりやすく工夫する、また、モニターツアーや体験乗車で使い方に慣れていただきながら利用を促したい。
- ・フリー乗降と予約制の違いについて、住宅地がある程度固まっていたその中に路線を通している茂辺地地区と、住宅が点在していてすべてに路線を通すことが難しい石別地区という違いがある。
- ・タクシー事業者からは、石別地域限定であれば競合の点でも対応可能と伺っている。
- ・フリー乗降と予約制との大きな違いは、フリー乗降であれば路線上のどこでも乗降可能で、予約制であれば家の付近で乗降できるというもの。茂辺地は住宅の近くまで路線が入っており、ある程度アクセスしやすい環境が確保できているので、このような提案となったもの。
- ・周知方法について、体験乗車やモニターツアーでの周知、老人会や町内会など個別にお知らせしていきたい。

○委員

- ・フリー乗降に懸念がある。乗ってもよい場所、降りてもよい場所を利用者が判断することは難しいのではないか。
- ・むしろバス停を増やして細かく設置すべきでは。

●事務局

- ・今後警察とも相談しながら、危険個所を除いたわかりやすい路線図を作成したい。
- ・バス停の設定を細かくしすぎると逆にわかりにくくなったり、コスト面でバス停の管理や移転の経費もかかってしまうため今回のような提案とした。

○会長

- ・実際は、フリー降車からのスタートになるのではないかと思う。フリー乗車といっても、実際は交差点などでタクシーのように止められても困る。

○委員

- ・フリー乗降は、あくまでも最寄りから乗れて最寄りで降りられるというもの。函館バスが行っているフリー乗降はバス停間の距離が遠い過疎地のバス停間においてのフリー乗降で、町の中でのフリー乗降区間は設けていない。
- ・バス停のコスト面で懸念があるのであれば、いっそのことバス停を設けず全区間フリー乗車にするのもよいのでは。

●事務局

- ・交差点や橋など設定できない区間を洗い出して、それ以外のところは広く乗降可能区間として設定していきたい。

○委員

- ・フリー乗降と区域運行について、利用者を増やすため必要な取組かと思う。
- ・できればタクシー乗ってもらいたいが、市と相談の上、苦汁の決断でやってみようかなと判断した。
- ・茂辺地地区については、ワゴン車なので安全面でもフリー乗降に対応可能と判断。
- ・何とか乗車率を増やしていきたいので、フリー乗降、区域運行ともに、何とかやってみようと考えた。

○会長

- ・フリー乗降の危険箇所をどうするか、わかりやすくする工夫、周知方法、モニター乗車の必要性など、これら課題の調整を進めながら、案に沿って進めていただきたい。

(6) 函館バス18系統茂辺地線の廃止に伴う対応について（協議）

●「資料6」に基づき事務局から説明。

○委員

- ・18系統については、コロナ前からの不採算路線であり、乗務員不足への対応から路線の効率化が必須な状況。
- ・当社としても代替便の周知を徹底してまいりたい。

○委員

- ・経済性から函館バスが撤退せざるを得ないのは理解できる。
- ・今、代替案が示されているが経済的に継続できるのかは疑問だが、暫定的な対策として巡回ワゴンの増便対応をやってもらえればよいのかなと思う。

3 その他

●「資料8」に基づき今後のスケジュールを事務局から説明。

以上